1995年における東芝技術の成果

1995年技術成果号の発行にあたって

取締役副社長
江川 英晴

円高が一段落して企業の業績は上向きとなってきましたが，景気回復に力強さは感じられません。しかし，エレクトロニクスとエネルギー・環境関係に基盤をもつ当社の事業にとって，新しい事業展開のチャンスは大きいと考えています。

ここ数年喧伝されてきたマルチメディアも，混沌の中からようやく実ビジネスの芽が見える状況となってきました。コンピュータ，通信，パソコン，家電に加え，その基盤に半導体，液晶などの電子部品事業をもつ当社は，幅広い技術，事業分野をカバーすることができます。当社の総合力を発揮してこの新しいビジネスチャンスを積極的にとらえていきたいと思います。

マルチメディアの分野で新規事業を企画，推進する組織（Advanced I 事業本部）を1994年7月に発足させ，全社から人材を集め，この新しい分野に新しい流れを作るために活動を開始しました。そして，1995年度はいくつかの分野で手応えが感じられる段階に至りました。

DVD，スマートテレビシステムなどがこれで，いずれも東芝の提案に業界の多数が賛同，実質的な業界標準を形成しつつあり，新マーケットを創造する方向で動き出しています。これらに続く開発，マーケットへの提案も次々に出していきたいと考えています。

特にDVDは，今後のマルチメディアを推進するうえでの基幹技術として重要です。民生用，コンピュータ用両面をカバーする共通のフォーマットをもち，高性能の画質，音質とともに情報への高速なアクセスが可能なので，民生とコンピュータに二分した現在の情報機器マーケットを融合する役割を果たします。また，DVDの基盤技術の一つであるMPEG2画像圧縮，伸張技術は，ディジタル動画に関するきわめて広い応用範囲をもっており，当社の総合技術を駆使して今後も継続して注力していく所存です。

このほかいくつかの分野でも新技術，新事業推進の母体となる組織を1995年に新たに編成，推進しています。社会・情報のセキュリティ技術，ハード・ソフト両面からの機器の使いやすさや必要な情報への心地よいアクセスなどを実現するためのヒューマンインタフェース技術，当社が得意とする金融，郵便，交通などの分野での自動化機器の技術，などに通信，情報処理，画像認識技術を加えることで事業分野の拡大を目ざしています。これらに加えて、下記の項目にも注力しています。

1．コンピュータおよびその応用分野のオープン化の推進
2．エネルギー・公共，環境分野での次世代技術の投入
3．半導体，表示装置など電子部品分野での先端技術・先端製品の開発加速と，機器への応用の加速

以上，当社の技術開発の方向について概要を示しました。皆様のご助言，ご指導をいただきたくお願い申しあげます。

なお，マルチメディアについては，東芝レビュー1月号で「マルチメディア特集号」として発行していますので，本号と併せ，その成果をご覧いただければ幸いです。